

No. 1 多様な種類の資料・情報の利用

1. 学校図書館のさまざまな情報メディアとその特性

- メディアとは、情報を伝える媒体である。
- 学校図書館で扱う情報メディアには、次のようなものがある。
 - ・印刷メディア(図書・新聞・雑誌等), 視聴覚メディア(CD・DVD/BD等), 電子メディア(パッケージ系/オンライン系)
 - ・新聞・雑誌の切り抜きやパンフレット等は、ファイル資料の形で保管することもある。
- 電子メディアのうち、データベース(事典データベース, 新聞データベースなど)には採録の基準があり、内容に一定の質が確保されている。目的に応じて使用するものを選ぶ。一方 Web サイトは、とくに図書として出版されていない時事的な情報を探すのに有効であるが、内容の質にばらつきがあるので、信頼できるものを選んで使う。
- 記録されたり印刷されたりしたもののほか、実物,人, 自分の体験なども情報源である。

2. ネット VS 本 ? → どちらも使おう!

- 学校図書館で扱う情報メディアは、図書・AV資料・デジタル資料・実物など多様である。
 - それぞれの特徴を知り、「こんな時は何をを使えばいいかな?」と考えて選ぶ習慣を身につけさせたい。
 - 「なんでもインターネット」ではなく「学校図書館だから本で」でもなく、どちらも使おう!
- ひとつの事柄について、印刷体とインターネットの両方で調べて結果を比較してみると、調べる事柄によって印刷体の方が適している場合があること、インターネットの方が適している場合があることが体験により理解できる。
- デジタル資料の活用は年齢に合わせて
 - ・初めは「ポプラディアネット」のような子ども向け事典データベースから利用に慣れさせる。事典データベースは信頼性も高く、一般的な Web サイトを使う前の練習にもなる。
 - ・次に Web サイトの「キッズ外務省」のような、信頼性の高い公的機関の子ども向け Web サイトを利用させる。
 - ・慣れてきたら、複数の子どもの向け Web サイトのリストから選ばせたり、「Yahoo! きっず」などの子ども向け検索エンジンを利用させる。
 - ・信頼できる Web サイトの選び方の指導をしてから、一般の Web サイト検索をさせる。

3. 学校図書館でのデジタル情報活用

- ・最新の時事テーマなどは図書資料になっていない
- ・図書購入予算も限られている
- ・子どもは、その場で情報を手にしたい

⇒ そんなときは Web サイトが便利

- 学校図書館には、図書資料だけでなく、データベース契約やインターネット環境の整備も必要である。つまり、Wi-Fi を整備して図書館でも 1 人 1 台端末を併用した学習ができるようにする。

4. 情報活用能力の指導も学校図書館の仕事

- リストを与えて「この中から探さない」だけではなく、将来社会人になったときに必要に応じて自分で適切な情報を探ることができるように、子ども自身が種々の情報・資料の利用の可能性を考える学習が大切である。情報活用能力を段階的に身に付けられるように、学習目標を段階的に設定することが必要である。
- 学校図書館は情報センターとして、どの教科にも必要で土台となる、多様な資料や情報の活用能力を教科横断的に育成する役割をもっている。学校図書館とは別に、ICT 教育担当者がコンピュータを基盤とした情報活用能力の育成に当たってきた。今後は学校図書館を活用した情報活用能力と、コンピュータを基盤とした活用能力を統合して、情報活用能力を育成していかなければならない。